三谷水産高等学校同窓会会報

MIOSUJI

みおすじ

第17号

発　行　愛知県立三谷水産高等学校同窓会
〒443-0021 愛知県蒲郡市三谷町水神町通2-1
TEL.0533-69-2265　FAX.0533-67-7699

本年度は水高祭で会いましょう

同窓会長（昭和42年漁業科卒）
鎌田　篤司

私達の母校、愛知県立三谷水産高等学校は、昭和15年、愛知県水産試験場付設講習所として生徒14名で開講以来、本年で68年となる歴史と伝統を誇る、愛知県唯一の水産学校です。その三谷水高の同窓会長として、未熟な“鎌田篤司”ですが、7千数百名の同窓会会員のご支援・ご協力のお陰で、4年目を迎える事ができました。「みおすじ」に、同窓会長としての挨拶文を書くのも今号で4回目になりましたが、この事は、私の無上の喜びでもあります。

最近の日本は、各地での通り魔事件、食品偽装問題、そして原油高による全国一斉に漁船が休漁する等々いやなニュースが実に多い。が、そんな時の7月11日、午後10時過ぎ、同級生の高柳君から突然の電話があった。「アフリカ沖で鮪を獲っている」と、明るく元気な声で話をしてくれた。久しぶりに誠に楽しい電話だった。その高柳君が、「うちの家内が、『みおすじ』をアフリカまで送ってくれるから、学校の近況等楽しく読ませてもらっている。現地であう仲間から『みおすじ』の話題が時々でるよ。」とも言ってくれた。『みおすじ』を世界中の三谷水高の同窓会員が読んでいてくれる事を聞き、大変うれしく思うと同時に、編集する者の1人として、責任の大きさを改めて感じた次第です。

7月13日（日）付朝日新聞の、「がっこう探検隊」という特集記事で、三谷水高の「海洋資源科海洋環境コース」が取り上げられた。アマモの種を学校前の人工干潟に広げて、海の中にアマモの森を作る取り組みを記事にしたものでした。この事業は、地元漁協と県水産試験場と一緒に取り組むもので、文科省と水産庁が始めた、「地域産業担手育成プロジェクト」に選ばれた。とも書いてあった。そして、この記事の後半部分では、全国で56校あった水産校が44校に減った事や、水産高校の合併や統廃合で、関東から水産高校の名が消える等全国的な水産高校の現況を伝えていた。

しかし、その反面、文科省の談話として、「社会の関心が高い環境や食の問題は、水産教育で重点的に取り組んできた内容と重なる。水産高校の役割は今後増す」と、水産高校を高く評価する事も書いてあった。今後の水産高の方向性を示した記事であり、興味深く読ませてもらった。

現在の、三谷水高を取り巻く状況を同窓会会員の皆様に知ってもらいたい事もあり、本年の同窓会総会を11月15日（土）の「水高祭」当日に、学校で開催する事にしました。

三谷水高の生徒会が主催し、生徒、先生、PTA等々が頑張る「水高祭」では、市の内外から注目されているボランティア活動、カッター部の全国大会優勝、ダイビング部の活躍等を紹介していて、今の三谷水高の様子が実によくわかります。鮪や缶詰の即売もあり、この項では三谷の人達だけでなく、蒲郡市の年中行事になりつつあります。この機会に、現在の三谷水高を知ってもらう為にも、ぜひ同窓会総会にご出席して頂きたいと思います。同窓会役員一同、生徒と共に同窓会員の皆様をお待ちしております。

《追伸》

三谷水高は、平成22年（2010年）には、開校70周年を迎えます。同窓会の事業として、「三谷水高の歴史写真展」等を考えております。会員の皆様のお手持ちの写真や、水産高に関する資料をお持ちの方々、何卒のご協力を、よろしくお願いいたします。

三馬

止揚

「三馬」で夏目漱石は『我輩は猫である』でサンマのことをこう書いている。朝食には銀鮭がある。魚市場の競りで、サンマの音が響かない、だからコウマと叫んだという。もう一つは一匹食べると、三馬力の力がつくからというものだ。確かにビタミン類やドコサヘキサエン酸、エイコサペンタエン酸などが豊富で、アレルギーを防ぐ抗酸化作用があり老化防止にも役立つ。サンマを食べながら、病人が続るという意味のことわざもある。今では冷凍物も含め年中、店頭に並ぶが、やはり旬の脂の乗ったサンマがうまい。できれば七輪で炭火焼きにして、スダチかカボスを絞りたい。秋のサンマがおいしいのは北の海でたくさんの餌を食べているので脂がのっているからだろう。生産が減少して、値段も高くなっている。流通の知識がある人材も必要だ。「フィッシャーマン21」のある推進委員の言葉が耳に残った。確かにそうだ。漁師の技術を習得すればよい、という時代ではない。もっと多面的な知識・技術が必要だろう。

漁業の将来が心配だ。三谷水産高校では愛知の水産業担い手育成事業「フィッシャーマン21」が始まった。文部科学省と水産庁が連携、全国で五県をモデル地域に選んだ。効果を見て、他の地域にも広げる予定だ。漁師や漁協、企業が協力して、生徒の育成に取り組む画期的な事業だ。

一次産業、農業、漁業、林業の若者離れは著しい。きつくて、収入が少なく、将来性が見えないからだ。しかし仕事は現在の日本にとって重要なものばかりだ。前にも書いたが収入が低い介護労働も同じような現状にある。担い手育成事業の取り組みに期待したい。

休漁の記載があるからだ。必要だ。「フィッシャーマン21」のある推進委員の言

▲蒲郡新聞社説　平成20年9月3日

▲カッター部優勝報告（蒲郡市役所）